

# 遺跡は語る

The ruins tell a story

わが町「能登川」には、古く縄文・弥生の時代から人々が生活していました。  
 現在、町内のいろいろな所で、発掘調査が行われていて、  
 昔の人たちがどんな生活をしていたか、古代のロマンを与えてくれます。

## 縄文時代

縄文時代の遺跡としては、町内伊庭の金刀比羅地先の干拓堤防や付近の土砂の中から、縄文中後期の遺物とし



正楽寺遺跡復元想像図

て石斧・石鏃・土器片などが発見採取されています。

また、町内種地先の正楽寺遺跡では、発掘調査が行われて縄文人の住居の跡や、当時の生活に使われた品々が発見されています。その他、林・石田遺跡、今安楽寺遺跡など多くの遺跡があります。

正楽寺遺跡発掘



### 正楽寺遺跡

正楽寺遺跡は、愛知川左岸の町内種地先で開発に先立ち発掘調査され、いまから約3500年以上も前の縄文時代後期の集落(村)の跡が発見されました。西日本でこれほど大きくまとまった集落跡が見つかることはなく、貴重な発見と言えます。

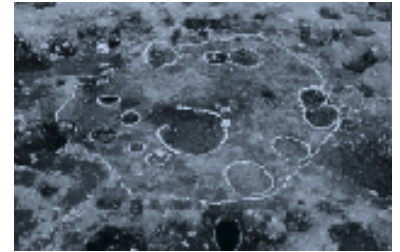
この遺跡の発掘で、竪穴式住居跡、掘立柱建物群、祭りの広場など、縄文の人々の生活の跡や、生活に使われた櫛、土で作られたお面(土面)、石器、鏃、石斧など多くの遺品が見つかりました。



出土した土面(左)とレプリカ(右)

### 林・石田遺跡

この遺跡は縄文時代後期の住居跡で、直径約4メートルの不正円形の竪穴式住居跡です。中央に火を焚いた炉の跡と周囲に11



林・石田遺跡の竪穴式住居跡

本の柱を立てた穴、さらに住居の穴から、埋嚢が発見されました。この中から火で焼かれた人間の骨の一部が見つかり、これは再葬墓として骨を移し変えたものではないかと思われています。

### 今安楽寺遺跡

発掘調査の結果、この遺跡からは埋嚢が9つも見つかり、この遺跡の周辺には人々が生活していた住居跡の可能性があるとされています。



今安楽寺遺跡の埋嚢

## 弥生時代

紀元前3～2世紀頃から、それまでの縄文文化とは異なった新しい文化が発生しました。これを弥生文化と言って、生活の道具として、それまでの石器とともに金属器を使用するようになりました。また、稲作の技術をもった農耕文化でもありました。能登川町では、大中の湖南遺跡や小川・宮の前遺跡などがあります。



◀ 大中の湖南遺跡



▲ 出土品(滋賀県立安土城考古博物館蔵)

### 小川・宮の前遺跡

昭和37年に小川で工場拡張工事のときに発見され、調査の結果、弥生時代を中心とする集落遺跡であることがわかりました。

その後、数回の調査が行われ、<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>方形周溝墓や木棺墓、多くの土器などが発見され、この集落遺跡は、弥生時代中期から後期にかけて存在していたことが判明しました。



宮の前遺跡の周辺

### 大中の湖南遺跡

「大中の湖干拓事業」の工事のときに発見された遺跡で、発掘調査の結果、縄文時代から鎌倉時代にかけての複合集落であることが判明しました。とくに、弥生時代の遺構としての水田跡や水路跡、また、遺物としては木や石で作られた農耕具が多く見つかリ、このあたりで農業が発達していたことがわかりました(昭和42年 1967に国の史跡に指定)。



### 方形周溝墓 <sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>

方形周溝墓はまわりに溝を掘り、その土を積みあげてつくった墓です。墓はいくつもまとまってきずかれており、ムラの有力な家族をつぎつぎに葬ったものと思われるます。



『日本の遺跡なんでも事典』集英社より



## 古墳時代

古墳時代の終わりの頃の古墳は、<sup>きぬがさやま</sup> 織山周辺に数多くあります。これらの古墳で能登川町に属するものは、約133基ほどを数えることができます。これらの古墳を集合群別に名称をつけていきますと、「佐野山」「善勝寺裏山」「山面」「西山」「北山」「望湖」「安楽寺山」「須田山」となります。

古墳には竪穴式石室と横穴式石室の2種類があります。竪穴式は縦に石組の穴を掘り死者を葬ったもので、新しい死者が生じてもそこへは埋葬できませんでした。

横穴式は、墳丘の横から「羨道」<sup>せんどう</sup>を通して「玄室」<sup>げんしつ</sup>という空間に人を埋葬するものです。織山に築かれた古墳の多くは、この横穴式です。

古墳の中には、死者と一緒に金環や須恵器などが副葬

品として納められていて、これらの遺品から古墳時代後期のものと考えられています。

### 中沢・斗西遺跡<sup>とのにし</sup>

佐野を中心とした弥生時代後期から古墳時代のはじめに人々が生活していた跡です。

この遺跡は、愛知川の自然堤防<sup>びこうち</sup>（微高地）の上につくられていて、調査の結果、数多くの竪穴式住居や掘立柱建物、方形周溝墓<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>、前方後円墳（100メートル以上）が見つかり、出土した土器は祭りに関係するものが多くあり、滋賀県下でも数少ない大集落遺跡であると言えます。

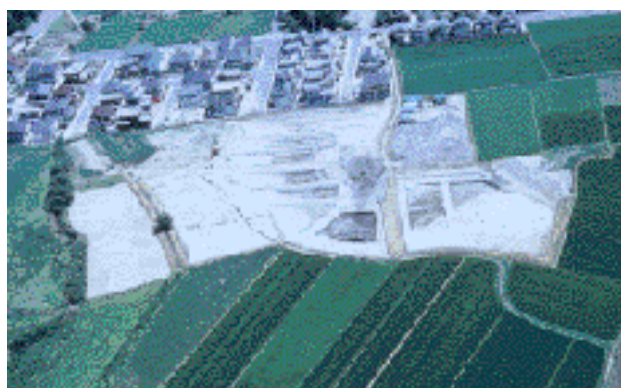
### 巨石崇拜

古代人の信仰には、山や奇岩・怪石に対する崇拜があり、岩石を神聖なものとして神霊が宿るものと考え、とくに形が奇異であるものを不変でつねに成長し続ける生命力をもつものと信じていました。

町内には、岩神・岩船・磐座などがあります。



◀ 猪子山古墳群石室開口部



▲ 斗西遺跡



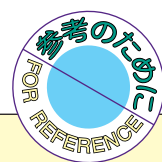
▲ 岩神



▲ 岩船



▲ 磐座



### 北向観音

古代の磐座の中へ、いつ頃からか石造の観世音菩薩<sup>かんぜおんぼさつ</sup>がまつられました。それが近年人々の崇敬を集め、信仰と健康をかねて多くの人々が登っているようです。

